令和　4 年度
社会福祉法人大五京
こども園ソレイユ
自己評価結果公表シート

1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

・心情（Feeling）の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
・態度（Manner）の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
・自主的に行動（Behavior）できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任館」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
・個性（Identity）豊かな子ども…「演出表現」（「演技」「言語」「心情表出」）
「絵画制作」（「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」）
・健康（Health）な子ども…「運動・体力」（「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」）

2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

・掲げた予算目標は必ず収支共にフィードバックしながら達成
・研修と実経験を通してプロ意識を高める
・子どもの感性を育てる教育・保育研究を行う

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目（課題）		取り組み状況
①	掲げた予算目標は必ず収支共にフィードバックしながら達成	職員減により人件費は予算通りとなったが、光熱費高騰のため冬場の支出が大きい。また、ネイティブ講師の年度途中のレッスン休止により、収入が減少した。
②	研修と実経験を通してプロ意識を高める	先輩職員が講師となり園内研修をしたことで、後輩職員の知識を深められたと共に意識づけをすることが出来た。
③	子どもの感性を育てる教育・保育研究を行う	アワードバンケットでは本園から3件の発表を行い、2件入賞することが出来た。お子さまの期待・感性を高めると共に職員の研究心も向上した。

4．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

前年度に比べて感染症による規制の緩和もあり、保護者の方に参加いただける行事を増やしたことで、多くの職員と保護者、また、保護者同士の交流の場が持てたことは大変良かった。職員研修においてもWeb開催から対面式が増え、実践的に学びを深められた。また、園内研修の充実を図り先輩職員が後輩職員に研修を行うOJT方式を8回実施した。この企画は双方にとって有意義な時間が持て、モチベーションアップと共に、職員間のコミュニケーションがよくとれる機会となったことは評価に値する。今年度１年で得られた学びを次年度の向上した教育保育の実践へ繋がることが期待される。

5．今後取り組むべき課題（次年度へむけて）

	課題	具体的な取り組み方法
①	変化しつつある情勢に対応しながら柔軟な教育保育を提供していく	感染症に対する規制が緩和されることに伴い、お子さまの最善の利益を求め柔軟な姿勢で教育・保育を実施する。
②	保護者対応	保護者のニーズを汲み取り、丁寧な説明や対応することを心掛ける。定期的に保護者対応についての振り返り、改善を行なっていく。
③	新たな企画の発信	同じ状況に留まらず、お子さまにとっての最善を考えながら常に改善、進化していけるような企画提案を募集する。それに対し、実現できるように話し合う場を設ける。

6．学校関係者の評価

令和4年度を振り返り見れば、年度の前半と後半、または地域間や業種間で生じたCOVID-19に対して求められる対応の違いに、如何に適切な対応していくかが大きな課題であったと思われる。
　年度の前半と後半では感染対策の必要性は変わらないものの、社会活動を元に戻すという社会からの要請を如何に取り入れていくのという判断が難しく、また地域間においては法人本部のある関西圏と首都圏では自治体から求められる処置の厳しさに大きな差異があり、加えて、当法人の教育・保育分野と老人介護事業という業種間にあっては重症化リスクに合わせた対応をそれぞれに分けて行う必要もあった。
このような複雑な状況下にあって、当法人に所属する各施設、職員一人一人が当法人の掲げる基本理念と求める人材の何たるかを示した人材マップに基づいた原点にそれぞれが立ち返ることで、法人本部からの指示待ちに陥ることなく適宜適切な判断を迅速に行っていたことは大変頼もしく感じられた。これも平時にあって、職員教育や施設間、職員間の報告、連絡、相談をスムースに行える開かれた職場環境を日々構築されてきたことの賜物であると評価している。
　このようなコロナ禍でいみじくも発揮された連携の力を更に発展させるため、新年度には施設間の人材交流のみならず、保育教諭・保育士・幼稚園教諭・栄養士・調理師・看護師・介護士・ヘルパー・公認心理士、臨床心理士など法人内におられる各分野のエキスパートの交流を意識的に深める施策を検討、実施されるとのことで、どのような化学反応が起こるのか将来性のある試みに大いに期待する。
　また、昨年度の理事会・評議会が課題として指摘した年度予算に適合した各施設の安定的黒字化については、介護事業に未達が見られるがその他の施設では良好であった。理事会・評議会からの指摘に真摯に応え運営がなされることが当法人の特質であるが、それ故に理事会・評議会も短期・長期のそれぞれの視点に立った妥当性の高い管理・監督を心掛けなければならず、適切な緊張関係を今後も維持していきたい。ちなみに、介護事業では介護を必要とされながらもネグレクト的問題からの緊急避難的保護を多く受けたことも未達の一因であったとのことで、理事会・評議会としては社会正義の観点からの清々しさが感じられ許容できるが、来期の改善を望む。
当法人にも少子化、物価高といった社会全体が抱える問題が大きく横たわっているものの、役職員一同が一丸となられて乗り越えていかれることを理事会・評議会としても強く支持していくつもりである。

令和4年3月29日　理事会・評議会